

2023年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(刑 法)

次の(設例)を読んで、X、Y、Zの罪責について論じなさい(住居・建造物侵入罪及び特別法違反の点を除く)。(配点：100点)

(設例)

Xは、多額の負債があり生活にも窮していたところ、令和3年8月30日の夜、行きつけの居酒屋で、仕事仲間のYと飲酒をした際、Yに「何かいい儲け話はないか。」と金銭の入手方法について相談を持ち掛けた。すると、Yは、Aは自宅に多額の現金や貴金属を置いているらしいと述べ、A宅の構造や付近の地形を図解して示し、A宅に侵入して金品を盗めばよいと、金品の窃取をそそのかした。これを聞いて、XはA宅に侵入して金品を盗み出すことを決意し、友人のZを仲間に引き入れて実行することにした。Xは、Zに計画を打ち明けて、自分がA宅に侵入して金品を盗み出すから、付近で見張りをしてくれれば3割の分け前を渡すという条件で協力を依頼した。Zは、自身も金に困っていたこともあり、これを了承した。

同年9月5日午前1時30分ごろ、XとZは、X運転の自動車でA宅近くまで行き、逃走のために自動車を発進しやすい位置に停めた。Zは自動車を降りて見張りとしてA宅門扉後方で待機していた。Xは、所携のバールでA宅の門扉の施錠を壊して敷地内に入ったが、防犯設備が厳重であった住居に侵入する方法を発見できなかったため、住居への侵入をあきらめて引き返した。Xから計画を断念したと聞かされたZは、「ここまで来て手ぶらでは帰れない。」と言い出し、近くのB商店の様子をうかがい、これならいけそうだとB商店に盗みに入ることを提案した。あきらめきれずにいたXもこれを了承して、B商店に向かった。

同日午前3時ころ、ZがB商店付近の路上で見張りをしている間、Xは、B商店内に侵入して、手提げ金庫のあるところに向かって歩き出した。その時、物音を不審に思ったB商店の店主CがXを発見して、「泥棒」と叫んで追いかけてきた。追いつかれそうになったXは、逮捕を免れるために、所携のバールでCの頭部めがけて力任せに何度も殴りかかり、Cがこれをよけようとして転倒したすきにZとともに逃走した。Cは転倒した際に膝をすりむいて全治10日間の擦過傷を負った。